



「先生、うちもやりましょう!」

教員・職員・学生 みんなで「○○○!」

今回のAtoZは、趣向を変えて阪大内の活動に注目。

夏になると、各部局では教職員・学生がみんなで参加して親睦を深めるイベントが数多く開催されます。今回はそんな阪大内のインナーコミュニケーション向上の取組でユニークなものを紹介。この夏、皆さんも何かを企画してみては？

みんなで**SPORTS!** ボウリングやソフトボールに熱くなる部局も。



フットサル大会 (産業科学研究所)



大縄跳び大会 (産業科学研究所)



研究室専用ユニフォームと自作のトロフィー

みんなで**FESTA!** 他にも桜の季節にはお花見や、バーベキューや草刈りをすることも。



産業科学研究所「産研フェスタ」



接合科学研究所「JWRI フェスタ」

みんなと**COMMUNICATION!**



学内異分野交流会
アカデミックバール

部局の枠を超えて知り合う「場」をつくる

専門分野や所属の枠を超えてコミュニケーションを図ろうという動きも広がっています。

大型教育研究プロジェクト支援室のリサーチ・アドミニストレータ(以下URA)主催で開催している「アカデミックバール」もその一つ。同じ大阪大学に所属しているけれど、見ず知らずの研究者や事務職員らが集まり、ご飯とお酒をたのしみながら気軽に話ができる「場」を設けようという試験的な企画で、これまでに3度開催されています。きっかけは、URAの活動を通じて多くの研究者から「他の分野の研究者の話も聞いてみたいけれど機会がない」という声を耳にしたこと。

主催者の一人URAの福島杏子さんは「分野融合や分野横断といった言葉をよく耳にしますが、いざ研究プロジェクトを作ろうと思っても、ウェブ上で検索した人が適しているのか、そもそも自分自身と肌が合うのかはわかりません。自分の大学で働く人が、どんな研究をしているのかを知る「場」があれば、研究プロジェクトを提案する上で役立つかもしれないですし、少し異なる視点から自分の研究や仕事を見ることができるとも思っています。まず、過去に私たちのイベントに来てくださった研究者や事務職員などにお声掛けて始めました。今後は参加される方々からこういうテーマで交流会を開催したいという希望を頂ければと思っています。」

先日豊中キャンパスの文理融合型研究棟で開催された第3回目も、研究者、事務職員、学生が飲食を忘れて大いに盛り上がっていました。次回は秋ごろ開催できたらと福島さん。こういった所から、未来の研究の種は生まれるのかもしれない。

■参加者の声
工学研究科・小久保研先生
「2回目の参加です。知り合いに歯学や物理が専門の先生がいなかったので参加しました。前回知り合えた先生とは、すぐに意気投合して実際に共同研究を始めています。異分野の先生や、部局外の職員さんたちと話す機会は少ないので、こういった機会は楽しくて有意義ですね。」